

● Information

イベントカレンダー

埼玉県からのお知らせ

◆「川の国 埼玉」魅力100選 ～お気に入りの川の表情を教えてください～

埼玉県には个性的で魅力的な川がたくさんあります。そこで、皆さんの「イチ押し川のスポット」をご紹介いただき、一緒に埼玉の川の魅力をPRするものです。

【募集内容】

- ①川の名前
- ②場所（住所や近くの橋の名前など）
- ③写真やコメント（思い出、エピソードなど）

【応募方法①】

各市町村で配布している応募用紙に必要事項をご記入の上、下記問い合わせ先に郵送して下さい。（応募用紙は埼玉県河川砂防課HPからもダウンロードできます）

【応募方法②】

埼玉県河川砂防課HPより応募様式（word）をダウンロードし、必要事項を入力して、メールにて送信して下さい（写真添付の場合は、ファイル容量が1 MB 以内に収まるように、画像を圧縮して貼り付けてください）。

- ・埼玉県河川砂防課HP
(<http://www.pref.saitama.lg.jp/A08/BG00/kawanokuni/kawanokuni.html>)
- ・メール件名は「川100選応募」として下さい。

【応募方法③】

携帯電話のバーコード機能で右記 QR コードを読みとって、メール作成画面にアクセスし、必要事項を入力して送信してください。

【募集期間】

平成19年7月13日（金）～9月10日（月）

【発表】

応募頂いた皆さんのお気に入りスポットは、県民の方々の意見を参考に選考のうえ、「川の国 埼玉」魅力100選」として冊子にし、配布を行う予定です。また、入選（100選に選定）者には河川砂防課より冊子を進呈いたします。

【主催】埼玉県

【後援】

朝日新聞社さいたま総局・共同通信社さいたま支局・埼玉新聞社・産経新聞社・さいたま総局・時事通信社さいたま支局・テレ玉・東京新聞さいたま支局・日刊工業新聞社さいたま総局・NHKさいたま総局・フジサンケイビジネスアイ関東総局・毎日新聞さいたま支局・読売新聞社東京本社さいたま支局・FM NACK5

※応募の際にいただいた個人情報については、本件事業に関する確認及び展示・公表の際の記載（居住地名・氏名・年齢）以外には使用しないものとし、その保護に万全を期してまいります。

【応募先・お問い合わせ】

〒330-9301 さいたま市浦和区高砂 3-15-1
埼玉県県土整備部河川砂防課 企画調査担当
TEL 048-830-5162（直通）
E-mail：a5120@pref.saitama.lg.jp



◆ こどもとおとなの自然塾（3） 「秋の夜に虫の声をきこう」

- ・日時：9月8日（土） 17:00～19:00（雨天中止）
- ・集合場所：東武東上線・柳瀬川駅前サミット前広場
- ・内容：夕方に川原で虫を捕まえて観察し、暗くなったら川原と近くの公園でじっくりと虫の声を聴きます。
- ・持ち物：長袖・長ズボン、虫取りアミ、懐中電灯、筆記用具、あればスタンプカード・虫よけ・虫めがね
- ・費用：200円（会員100円／中学生以下は無料）
※家族参加者は家族全員で1名扱い
- ・主催：NPO法人 エコシティ志木
（財）埼玉県生態系保護協会 志木支部
- ・後援：志木市立教育サービスセンター
- ・お問い合わせ：048-471-2211
（志木市立教育サービスセンター）

新河岸川流域フォーラム 10月20日(土) 開催予定！

新河岸川流域フォーラムは、総合治水対策を含めた健全な水循環形成の意義・重要性等について、広く一般の方に理解を深めてもらうことを目的に、川づくり活動への参画、行政と市民、市民団体間のコミュニケーションの活性化と連携を深めるため、毎年開催しています。



詳細は次号の里川で お知らせします！

事務局便り

川づくり連絡会に参加してみませんか？



川づくり連絡会の様子

原則第2火曜日に新河岸川流域川づくり連絡会を開催しています。参加希望の方は、右記事務局までお問い合わせください。（開催場所はお問い合わせ時にお知らせします。）

しんぶん「里川」掲載情報を大募集します！

各流域や地域での活動報告やイベント情報を募集しています。身近な情報などをお手紙または FAX・メールにて事務局までお寄せ下さい。

■ 連絡先

〒115-0042 東京都北区志茂5-41-1
新河岸川流域川づくり連絡会 事務局
（国土交通省関東地方整備局 荒川下流河川事務所 調査課内）
TEL 03-3902-3220 FAX 03-3902-2346
URL <http://www.ara.go.jp/arage/shingashi/>
E-mail shingashi@ara.go.jp

THE SHINGASHI BASIN NEWS

新河岸川流域しんぶん



VOL. 47

発行 ●新河岸川流域川づくり連絡会（荒川下流河川事務所 調査課内）
住所 ●東京都北区志茂5-41-1 TEL03-3902-3220 FAX03-3902-2346
発行日 ●2007年（平成19年）8月31日



切り絵 毛利将範

目次

- P 2-5 特集：川まつりリレーフェスティバル
- P 5 「平成19年度 第1回新河岸川流域川づくり懇談会」報告
- P 6 「多自然川づくりフォーラム」報告
- P 7 行政からのお知らせ
- P 8 新河岸川流域情報

日中はまだまだセミの大合唱が続いていますが、夕方になると秋の便りも聞こえ始めました。この夏も川、森、海などで心に残る出来事がありましたか。恒例の川まつりでは、子供たちだけでなく、大人までも童心に帰り遊んでいる姿が見られました。今号では、7月から8月上旬に行われた川まつり開催結果を特集しました。

また、6月30日に開催された「多自然川づくりフォーラム in 柳瀬川・不老川・砂川」と、7月14日に開催された「平成19年度 第1回 新河岸流域川づくり懇談会」の模様を報告します。

盛りだくさんの内容となっていますので、どうぞお見逃し無く。

特集!

新河岸川流域 川まつりリレーフェスティバル!

毎年恒例の「川まつり」の季節がやって来ました。各支川のお祭りをつなぐリレーイベントを始めて早4年目となった今年も、各会場では、趣向を凝らしたイベントが盛りだくさんでした。参加した皆さんは、川あそびや清掃活動を通じて、川や自然のすばらしさを実感できた様子でした。

今号では、7月から8月上旬に開催された川まつりの模様をレポートします。また当日運営にあられたスタッフの方からは、これまでの活動に関するお話などをお伺いしたのであわせてご覧ください。

* 落合川（東久留米市）

* <前夜祭> *	* <川あそび> *
日時：7月28日（土） 16：30～21：00 場所：落合川沿い 不動橋広場 内容：16：30 模擬店開始 17：00 受付開始 18：00 コンサート【吹奏楽「市民吹奏楽団」、腹話術「東京チャタース」、和太鼓「楽鼓（ラッコ）」、ロックバンド「おじさんバンド」】 19：30 映画【「ぼくは王様」、「目をさませトラゴロウ」、どんぐりと山猫】 21：00 映画終了 主催：わくわく川掃除&川あそび実行委員会 実行委員メンバー：東久留米・ホテルを呼び戻す会、東久留米ほとけとじょうを守る会、黒目川流域川づくり懇談会、新河岸川水系水環境連絡会 等 後援：東久留米市、東京都環境局、東京都北多摩北部建設事務所、国土交通省荒川下流河川事務所	日時：7月29日（日） 10：00～15：00 場所：落合川（不動橋～立野一の橋）、不動橋広場 内容：9：45 受付 10：00 説明 10：15 川の清掃開始 11：30 清掃終了 12：00 昼食（豚汁無料提供） 12：30 太鼓演奏 12：15 挨拶 12：35 ロケット風船・花火・打ち水実験 12：45 川あそび開始（ゴムボート乗り、水ガキ講座、帆掛け舟づくり、一本橋わたり） 13：45 突然の豪雨 14：30 途中中止（すいか割り、ミスガキ大賞・河童のクウダ賞表彰をカット）

今年で14回を数える落合川「わくわく川清掃&川あそび」の前夜祭が、7月28日（土）の夕方から、落合川沿いの不動橋広場で開催されました。

朝からの暑い日差しがようやくかげり始めた午後4時半過ぎ、冷たいジュースやカキ氷等の模擬店がオープンすると、子供たちのグループや親子連れが徐々に集まり始め、次第に受付には行列ができるようになりました。

受付をしていたスタッフは、「川のイベントを通じて市民がられあうのはすばらしい。昨年会った人がまた来てくれて、挨拶を交わせるのが嬉しいから、毎年、ボランティアとして参加しています。」と話していました。

午後6時を過ぎる頃には、コンサートも始まり、市民吹奏楽団による「ドレミのうた」の演奏を皮切りに、東京チャタースによる腹話術、地元の和太鼓グループ「楽鼓」の演奏、エレキ全盛の時代を懐かしんで結成された「おじさんバンド」の演奏と、盛りだくさんの企画が続きました。

暗くなるのを待って始まった映画は、親子で楽しめるアニメーションで、「ぼくは王様」「目をさませトラゴロウ」「どんぐりと山猫」の3本が上映され、これをもって午後9時に前夜祭は終了となりました。

近隣から参加した方からは、「まだまだ泳いだり、もぐったりできるほどではないが、川まつりなどにより、川がきれいになったと思う」このイベントを通じて川に関心を持ち始めたのは確か」という声も聞かれました。

川の清掃や川あそび以外にも純粋に楽しめる企画を、ということで始められた前夜祭ですが、例年にも増して盛況のうちに終了し、参加者は400名余にも上りました。

翌日の川あそび当日には約700人が不動橋広場に集まりました。まず午前中は川の清掃です。安全のために軍手をして、ゴミ袋と手ばさみを手に、いざ川

へ。大勢で清掃に取り組むことで川岸はとてもきれいになりました。

川から上がると昼食です。広場では、お椀を持った親子連れが行列を作っていました。また一角では、落合川・黒目川との合流点付近でとれたアユやオイカワなどを展示した水槽が並び、見ていた子供たちは興味津々の様子でした。

太鼓の音が響き午後の部がスタート。実行委員長の菅谷さんからは、「14年前に参加した子供が今はスタッフとなり、段々輪が広がっている」とのお話がありました。続く来賓挨拶では野崎重弥 東久留米市長から「川まつりを通じて、川のすばらしさ、なぜ川を大切にしなければならないのかを感じてほしい」とのお話をいただき、東京都北多摩北部建設事務所の池田所長からは「河川愛護月間の催しとして広報・設営面で協力し、都職員等21名が参加している」とのお話がありました。

次に、ロケット風船と花火を打ち上げ、参加者全員で打ち水実験をしました。その後、いよいよ川あそびへ突入！ゴムボート乗りや一本橋わたりなど、普段出来ないことに熱中する子供たち。もちろん大人も魚とりなどに夢中です。ところが、開始から間もなく突然の雨。スタッフの呼びかけで、参加者は急いで川から上がり、テントで雨宿りしました。降りしきる雨で、穏やかだった川の流れも一気に勢いを増し、川あそびは中断となりました。

そんな雨の中でも、さすがは子供たち。広場にできた大きな水たまりで遊んだり、川でとったザリガニをつかんだり、思いっきり楽しんでる姿が印象的でした。



受付はこちら



夜店の賑わい



大人も子供もみんなでゴミ拾い



おいしそうな豚汁です

スタッフに聞く!

●わくわく川掃除&川あそび実行委員長 菅谷 輝美さん
「川の怖さを熟知しているからこそ」

熱中症対策に麦茶を用意するなど、参加者が安全に遊ぶように配慮しています。天気図等の情報から今回の天候変化は予想していましたが、子供たちにとっては、川の怖さを知るよい機会だったと思います。また、東京都からは4、5回目の川まつりから、安全に川に下りるためのスロープや堰の設置などの協力を受けており、「ひとつのイベントと一緒にやっていく」というよい関係が築かれています。

●東久留米の育児応援マップを作る会 梶原 千夏子さん
「協力して4年目、毎年楽しみ」

子育てに役立つ情報を集めた育児応援マップ作りの会、市内4ヵ所で月1回、「ほろろん」というサロンを運営しています。川まつりへの協力は4年目で、今年は前夜祭で模擬店販売、当日は帆掛け舟づくりのブースをやりました。毎年、とても楽しく取り組んでいます。

●東久留米・ホテルを呼び戻す会 事務局長 前嶋 隆さん
「川に対する見方が変わったと実感」

川まつりを始めた当初は参加者が少なく、川に入って遊ぶのは、「汚い」「危ない」という保護者の声が多かったです。下水道が整備され水がきれいになった10年前くらいから、川の役目が目に見えれるとともに、皆さんの川に対する見方も変わってきたと思います。

* 富士見江川（富士見市）

日時：7月1日（日） 9：00～12：00 場所：富士見江川（油橋～寿橋）及び山崎公園 内容：8：30 受付 9：00 開校式 9：15 川から水槽へのバケツリレー 9：30 ゴミ拾い 9：45 魚とり 11：30 とれた生き物たちの説明 11：45 質問コーナー 主催：（社）東入間青年会議所（東入間 JC） 「自然探検クラブ2007」、ふじみ環境クラブ 協力：黒目川に親しむ会、新河岸川水系水環境連絡会 等 後援：富士見市教育委員会、ふじみ野市教育委員会、三芳町教育委員会	ふじみ えがわ
--	------------

新河岸川流域の川まつりリレーフェスティバル2007に先駆け、富士見市・ふじみ野市・三芳町で活動する（社）東入間青年会議所の「自然探検クラブ2007」とふじみ環境クラブとの共催で、富士見江川の川まつりが開催されました。

身近な川に入って生き物に興味を持ち、ひとりひとりが地域の川を良くにする活動につながればとの想いに、約70名の子供たちが参加しました。

「黒目川に親しむ会」の皆さんから、網を使った魚のとり方を教わり、いよいよ魚とりをスタートしましたが、今年は魚よりもザリガニがとれました。川の中になにか変化があったのでしょうか。

川からあがって水分補給をしたあと、早速観察！全部で13種類の生き物が確認されました。ナマズなどいる川は、そのエサとなる生物が沢山いたり、棲める（隠れる）場所があるということなので、生態系の指標のひとつになるとのことでした。「身近に川が無く、川で遊ぶことはほとんどない」と話していた子供も、生き物観察用水槽へのバケツリレー、土手のゴミ拾い、魚とりなどを経て、だんだん川に親しみを持てるようになったようです。

* 東川（所沢市）

日時：7月21日（土） 9：00～12：00 場所：川端橋（所沢市東中学校前） 内容：9：00 受付開始、ゴミ拾い開始 9：15 ゴミ拾い終了 9：25 ゴミ分別 9：30 開会 9：40 水しらべ講座（水質調査） 水生生物調べ 水ガキ講座（魚とり） 10：40 さかな教室 11：00 ふね遊び 12：00 終了 主催：東川を愛する会 協力：新河岸川水系水環境連絡会、所沢源流の会、生活クラブ生活協同組合所沢東支部・南支部 後援：所沢市、所沢市教育委員会、埼玉県、国土交通省荒川下流河川事務所	あずまがわ
---	-------

過ごしやすい曇り空の中で、今年で5回目となる東川・川まつりが開催されました。当日は、近隣の小中学校の子供たちとご家族、先生、ご近所の方、行政など、約80名もの参加がありました。

川まつりを始める前に、みんなで川に落ちているゴミ拾いと分別をしました。東川では「東川を愛する会」や周辺の学校が年間を通してゴミ拾いを行っています。「多くのゴミを一気に拾うのは無理があるけれども、様々な人が協力して毎年少しずつでも拾っていくことが重要なのです」とスタッフの手島さんは言います。

ゴミ拾いが終わったところで、手島さんより開会のあいさつがありました。その中では、東川で取り組んでいる住民と行政の連携による低水路護岸の整備について報告がありました。その後、来賓の方々からのあいさつがありました。

来賓あいさつが終わると、水しらべ講座が開講されました。講座では、様々な道具を使い現在の東川の状況を調査しました。透視度の調査では、長いガラスの筒に川の水を入れ、上からのぞいてどこまで見えるかを測定しました。背の低い子供たち

富士見江川の生き物たち

【さかな】
ナマズ、ウキゴリ、スミウキゴリ、ギンブナ、ドジョウ、ヒメダカ

【水生生物】
アメリカザリガニ、キタヨコエビ、ハグロトンボのヤゴ、アマガエル、アメンボ、カワナ、ミズムシなど



全員参加のバケツリレーで川の水を水槽まで運びました



川に入る前に土手のゴミを拾いました



魚とり名人の網には... 魚いるかな？



みんなでとった魚や生き物の説明を聞きました

スタッフに聞く!

●自然探検クラブ2007 隊長 細田 勝弘さん

「田んぼでの遊びが活動の原点！」

自分が子供の頃に遊んだ南畑（富士見市）の田んぼの体験が、自然探検クラブの活動の原点となっています。自然探検クラブは、富士見市、ふじみ野市、三芳町のまちづくりを目的とした東入間 JC の青少年育成事業です。体験を通じて、子供たち自らが地域の自然や生態系を良くする活動につながれば、と思っています。

●自然探検クラブ2007 スタッフ(初代隊長) 加藤 政実さん

「自然探検クラブを続けて13年」

活動を始めた当初は参加者を集めるのにととても苦労しましたが、今ではリピーターも多く、隊員募集時には受付から2時間で満員になる程の大人気です。これも継続の力によるものだと思います。活動の実施にあたっては、事前会合を持ち安全管理等に万全の準備で臨んでいます。

●ふじみ環境クラブ 代表 河原 淳子さん

「眺めるだけの川から 遊べる川へ」

生活排水問題を考える主婦の活動からスタートし、川の水がきれいになってきた5年前より子供たちの川での環境体験活動を始めました。富士見江川は三芳町との境にある丸池に発する小さな準用河川です。今後は保護者や学校等に見守られながら、多くの子供たちがもって遊べるような川になれば、と思います。

●黒目川に親しむ会 会長 菅野 啓三さん

「7月8月のカレンダーは真っ黒！」

小学校→専門学校まで幅広く総合学習の場で活動しています。授業では、ゴミ拾いと魚とりの体験とともに、川におけるゴミの問題、植物・生き物、水の循環について、講義を行っています。今年も夏休み中は各地の川まつりで活動を行い、多くの子供たちに川に親しんでもらいたいと思っています。

今日の東川

【水しらべ】
・気温 23℃ ・水温 14℃
・透視度 80cm ・COD 2ppm
・PH 9.5 ・NO₂-N 0.02
・NH₄-N 0.2

【さかな】
コイ、ドジョウ、タモロコ、モツゴ、ヨシノボリ

【水生生物】
ヒル、カゲロウ、ミズムシ、ヤゴ、アメリカザリガニ、クサガメ、スジエビ



こんなに大きなコイもとれました



ゴミはどこかな？



どこまで見えるかな？



コイといっても種類があるのですよ



最後はボートやカヌーで楽しみました

は台に乗り、一生懸命に筒の中を覗いていました。

水しらべが終わった後は、水ガキ講座です。魚のとり方をスタッフから習い、参加者はずいぶん慣れていながらも魚を追いかけていました。続く水ガキ講座では、とった生き物について、学生スタッフによりクイズ形式の説明がありました。子供たちはわれ先にとクイズに答えていました。説明のなかで、東川は体長40cm以上に及ぶ巨大コイやクサガメがいる一方で、ドジョウをはじめとする稚魚も多く、実に様々な生き物が住める環境の川であるという話がありました。

勉強の後は、カヌーやゴムボートでふね遊びをしました。オールを必死にこぐ子供たちの姿を見て、ほほえましく思いました。

スタッフに聞く!

●東川を愛する会 手島 弘さん

「試行錯誤でつくった低水路護岸」

東川の低水路護岸は、始め植生マットや丸太、板等でつくっていましたが、大雨が来るとすぐに削られてしまいました。そこで柔軟な素材である竹を使ってみたところ、自然な護岸ができました。現在はこの方法で護岸の範囲を広げています。



スタッフの手島さんによる開会あいさつと東川での取り組み紹介

* 柳瀬川（清瀬市） *

日時：7月28日（土）9：30～11：30
場所：清瀬市台団地 桜並木の下

内容：9：30 あいさつ
柳瀬川・空堀川 川あそびルーラー

9：50 魚とり
10：30 ボート遊び
ライフジャケット川流れ体験

11：20 魚の説明

主催：第4小学校せせらぎ探検隊運営委員会
（清瀬第10小学校も参加）

威勢のよいせみの声が鳴り響く中、「第4小学校せせらぎ探検隊」（以下、探検隊）の川あそびが開催されました。探検隊は地味・子供・学校をつなぐために様々な企画を行っています。昨年度からは、清瀬第10小学校（以下、10小）サタデースクールの子供たちと保護者が参加しており、今年度の参加者は約80名でした。主催している探検隊運営委員会代表の井出さんは、「自然環境の学習を通じて親子のコミュニケーションがより良いものになって欲しい。」と言います。

川あそびを始めるにあたって、清瀬第4小学校（以下、4小）の平井校長から「川は生きています」「川は先生です」という2つのお話があり、続いて10小サタデースクール担当責任者の笹生さんから、今回の参加にかけた親子のコミュニケーションがより良いものになって欲しい。」と言います。



川へはなるべく大人の人と一緒に行きましょう

魚とりスタート！網を片手に魚を追う子供たちに交じり、それ以上に真剣な保護者の姿も見られました。



今日の柳瀬川

【水質】
・気温 31.5℃ ・水温 22℃
・COD 4ppm ・PH 7
・NO₂-N 0.02 ・NH₄-N 0.01
・電気伝導率(EC) 260μs/cm

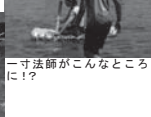
【さかな・水生生物】
アユ、オイカワ、イトトンボのヤゴ、コイ、ギンブナ、ウキゴリ、シマエビ、ヌマエビ、ドジョウ



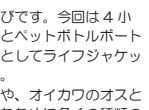
ほくがとりました！



いざ！魚とりへ！



一寸法師がこんなところ！



魚とりが終わると、次はボート遊びです。今回は4小と10小が合同でダンボールボートとペットボトルボートを作りました。また、初の試みとしてライフジャケットを使った川流れ体験がありました。

スタッフに聞くと！

●サタデースクール担当責任者 笹生 かをりさん

「自然にまざるものはない」

10小のサタデースクールは、子供たちが様々なことを「体験する」ために活動しています。今回の川まつりは環境を体験する絶好の機会ということで参加しました。参加してきて、子供たちや保護者みなさん素晴らしい顔になっていました。今後は他校との合同または交流サタデースクールが出来ると良いと思っています。

●川づくり・清瀬の会 宮澤 とよ美さん

「良い川のイメージをつくる」

この川あそびでは、野鳥・虫・魚について、もつと地域の人の目に届けてもらうために開催しています。柳瀬川については、川全体の生態系が豊かになり、流下能力もある良い川になってきていると思います。このような川のイメージを参加した人々が経験し、今後の川についてみんなが考えることができるようになれば良いと思います。

* 北川（東村山市） *

日時：8月5日（日）10：00～16：00
場所：北山公園・北川

内容：10：00 あいさつ
北川ウォーク、カヌー遊び
マジック、八国山のとりハイク
環境クイズ、ライブ

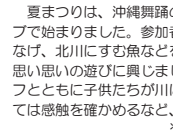
16：00 終了

主催：第12回北山わんぱく夏まつり実行委員会
協力：柳瀬川流域ネットワーク、
新河岸川流域川づくり連絡会、
東村山みどりの楽校、北川かっぱの会、
自治労東村山市職員労働組合

後援：東村山市、東村山市教育委員会、
東村山市社会福祉協議会、
国土交通省荒川下流河川事務所

第12回「北山わんぱく夏まつり」が、真夏の太陽が降り注ぐ中、北山公園内に設置された会場で開催されました。子供たちを始め大勢の参加者が、東村山の豊かな自然の中で多彩な遊びを楽しみました。

夏まつりは、沖縄舞踊の海人（うみんちゅ）の迫力あるライブで始まりました。参加者は、ザリガニ釣りや子供プール、輪投げ、北川にすむ魚などを展示した北川水族館コーナー等、思い思いの遊びに興じました。「北川ウォーク」では、スタッフとともに子供たちが川に入り、ドジョウや小魚を網で捕まえては感触を確かめるなど、普段ではなかなか味わえない体験を楽しんでいました。恒例のカヌー遊びはやはり人気が高く、子供たちは水をすべるカヌーの感覚を目いっぱい味わってました。「虫とりハイク」は、八国山緑地の林の中を歩きながら虫を捕まえ観察する企画で、40名ほどの親子連れが参加しました。山を歩く体



何がいるかな？



北川・八国山の生き物

【さかな・水生生物】
トウヨシノボリ、
アメリカザリガニ、
ドジョウ、モツゴ、ギンブナ、等

【昆虫】
クワガタ、ニイニイゼミ、
カマキリ、カミキリムシ、
カブトムシ、等



クワガタつかまえた



エイサーで祭りの始まり



もうちょっと右だよ！



みんな入り乱れてのフィナーレ

験が少ないため、連続する盛り道で疲れた口にする子供もいましたが、クワガタやセミが頻繁に見つかるようになってくると、みんな夢中になって虫を追いかけました。

会場には、渡部 尚 東村山市長も訪れ、子供たちと一緒に環境クイズに挑戦していました。マジックショーやジャズ演奏などの後、オールディーズのにぎやかな演奏が響き渡ると、音楽にあわせて踊る人もちらほら。海人のエイサーも合流して最高潮の中で祭りは終了しました。

スタッフに聞くと！

●北川かっぱの会 代表 三島 恒 さん

「地球的に考えて地域的に活動」

北川の清流復活活動などを目標に12年前に「かっぱの会」を立ち上げました。川と周囲の環境は確実によくなっています。これを地域の活性化にも繋げたいと思います。「地球的に考えて地域的に活動する」をモットーに、楽しくのんびりと活動を続け、次の世代に繋げて行きたいと思っています。

●第12回北山わんぱく夏まつり実行委員会 代表 渡辺 美枝子 さん

「自然護岸の復元を実現」

行政と地域が一緒になって北川や周辺の環境を考えようという活動を始めました。川の清掃や川流活動などを続けてきた結果、北山公園内の一部で自然護岸化が実現しました。さらに八国山の緑の保全や北川の環境向上を目指して、小学校への講師派遣、プールからのヤゴ救出作戦、「北川流域マップ」の作成等の取り組みを行っています。

* 黒目川（新座市） *

日時：8月5日（土）9：30～15：00
場所：栗原一丁目公園

内容：9：30 受付
10：00 あいさつ
10：15 ゴミ拾い
11：05 水ガキ講座（魚類調査・魚とり）
12：00 昼食
12：30 川あそび（ふね遊び・その他）
14：00 すいか割り
15：00 終了

主催：黒目川流域川づくり懇談会
協力：新河岸川水系水環境連絡会
新座の自然とくらしを守る市民の会

後援：新座市、新座市教育委員会、
埼玉県朝霞県土整備事務所、
国土交通省荒川下流河川事務所

こんがりとした子供たちの顔が、期待でキラキラ輝く中、「第9回わいわい川あそび」が新座市の栗原一丁目公園で開催されました。当日は、少し歩いただけでも汗ばんでくる程の強い日差しで、川あそびには絶好の気候でした。

10：00川まつりスタート。はじめに、川まつり実行委員長の井井さんからあいさつがありました。その後、みんなで川のゴミ拾いを行いました。未使用の花火、ドラノフ、ステレオ等の様々なゴミがありました。参加した子供たちは、ゴミの多さに驚きながらも熱心に作業し、ゴミ拾いを通じて、川に対するマナーを身をもって学んでいるようでした。

水ガキ講座ではスタッフから投網を使った魚とりの説明と実演がありました。投網の中に魚が何匹も入っているのを見ると、参加者から歓声が起りました。いざ魚とりが始まると、網を渡された子供たちは魚の隠れていそうな場所をスタッフに教えてもらい、見事に魚を捕まえていました。参加した大人たちの中には、投網の投げ方をスタッフから真剣に習う人もいて、子供だけ

ではなく大人も楽しんで魚とりにてした。

昼食はさみ、午後からはゴムボートやカヌーを使ってふね遊びをしました。ゴムボートに乗った子供たちは、ずぶ濡れになりながら上流と下流を行き来していました。中には、スタッフも驚くほど上手にカヌーをこく子供もいました。

川まつりの最後には、すいか割りをしました。子供たちは長蛇の列をつくり、自分の順番が来るのを今か今かと待っていました。目隠しをして棒を渡された子供は、みんなの声を頼りに一歩ずつ慎重に歩みを進めていました。割って食べたすいかのみずみずしさは、きびしい夏の暑さを和らげてくれました。

スタッフに聞くと！

●川まつり実行委員長 新井 文保 さん

「地域に浸透してきた川まつり」

今回で9回目となる川まつりですが、今年は毎回参加いただいている方が増えて、多くの人が参加していただけています。子供さんやお孫さんにも参加いただき、非常にうれしく思いました。川まつりを継続して開催してきたことで、地域の人々に世代を超えたつながりができつつあると感じました。

黒目川の生き物たち

【さかな・水生生物】
アユ、オイカワ、
イトトンボのヤゴ、アブラハヤ、
ウキゴリ、ドジョウ、ナマズ



とれた魚の数にみんなびっくり！



ゴミ拾いをしていたら、ヘビの抜け殻がありました



子供から大人まで楽しんでいました



一刀両断！

ではなく大人も楽しんで魚とりにてした。

昼食はさみ、午後からはゴムボートやカヌーを使ってふね遊びをしました。ゴムボートに乗った子供たちは、ずぶ濡れになりながら上流と下流を行き来していました。中には、スタッフも驚くほど上手にカヌーをこく子供もいました。

川まつりの最後には、すいか割りをしました。子供たちは長蛇の列をつくり、自分の順番が来るのを今か今かと待っていました。目隠しをして棒を渡された子供は、みんなの声を頼りに一歩ずつ慎重に歩みを進めていました。割って食べたすいかのみずみずしさは、きびしい夏の暑さを和らげてくれました。

スタッフに聞くと！

●川まつり実行委員長 新井 文保 さん

「地域に浸透してきた川まつり」

今回で9回目となる川まつりですが、今年は毎回参加いただいている方が増えて、多くの人が参加していただけています。子供さんやお孫さんにも参加いただき、非常にうれしく思いました。川まつりを継続して開催してきたことで、地域の人々に世代を超えたつながりができつつあると感じました。

●黒目川流域川づくり懇談会 高島 朋矢 さん

「もっと知ってもらいたい黒目川」

今回は国産板を使って川まつりの案内をだしたこともあり、多くの人が参加していただけています。子供さんやお孫さんにも参加いただき、非常にうれしく思いました。川まつりを継続して開催してきたことで、地域の人々に世代を超えたつながりができつつあると感じました。

黒目川への関心を高めてもらいたいと思います。また、みんなより一層きれいな川にしたいと思っています。

※7月15日（日）に予定されておりました柳瀬川（志木市）の川まつりは雨天のため中止となりました。

REPORT

「平成19年度 第1回新河岸川流域川づくり懇談会」 報告

懇談会は平成19年7月14日13時～15時半まで、さいたま市「埼玉教育会館」において開催されました。この会は毎年開催されており、市民・市民団体・行政が互いに情報を持ち寄り、コミュニケーションを図りながら「よりよい川づくり」について話し合う場となっています。NPO や市民団体の方々40名の参加をいただき、埼玉県による事業説明や市民団体の方からの事例紹介が行われ、活発な意見交換が行われました。

また今回は15時半～17時まで平成19年3月に開催された「第13回河川愛護交流会」についての報告と意見交換会も併せて行われました。ここに開催の概要についてご報告します。



【新河岸川流域の事業説明】

平成19年度に埼玉県が新河岸川流域において事業計画している20箇所について、朝霞・川越・飯能の各県土整備事務所より個々の事業説明が行われました。

【事例紹介と発表】

発表は最初に「行政・市民協働の川づくり事例」小林一己さん（黒目川に親しむ会）、次に「魅力ある川づくりの新たな取り組み」吉澤 隆坦副議長（埼玉県総合治水事務所）により行われました。

小林さんの発表は、見やすいパワーポイントを用いたもので、2000～2006年までの黒目川の河川改修工事の例より、市民参画を行いながら改修計画を変更した事例の具体的な紹介がありました。特に多自然川づくりの視点より「行政、自治会、市民、専門家との協働」「基本設計案づくりでは限界点としての治水と環境の共通認識を市民が理解できた」「川に中州、瀬、淵が形成された生態系や河川環境が改善」などの多くの成果が発表されました。

吉澤担当課長からは、これまでのアンケート調査結果や関係資料より魅力ある川づくりには「住民からの意見収集の重要性」「住民と行政間の

コミュニケーションの重要性」「地域と連携した確実な広報、行政内部での情報共有の重要性」などの発表があり、さらに、さいたま新都市でのパネル展示イベントの紹介がありました。また、発表は最後に大規模な視野に立ち、議論できるようなルールづくりを行っていただければ、とお話がありました。

【活発な意見交換】

菅谷輝美さん（新河岸川水系水環境連絡会）吉澤担当課長（埼玉県総合治水事務所）の司会により「行政と市民協働の川づくり」をテーマにして、参加者からの意見や各団体の活動内容について報告されました。市民から県へは土木行政や水、環境行政との情報共有の重要性、国交省、県、自治体、住民の情報共有や共通認識の重要性など貴重な意見が伝えられました。

【さいごに】

新河岸川流域の川づくりに関する皆様からのいろいろな意見をお待ちしております。ご意見は下記にお願いいたします。

〒344-0063 埼玉県春日部市福岡4-5-11
TEL 048-737-2001 FAX048-737-2193
E-mail n372001@pref.saitama.lg.jp
埼玉県総合治水事務所 荒川水系担当 清水、吉澤、大竹

プログラム

13：00～15：20

「新河岸川流域川づくり懇談会」

・平成19年度事業説明

・事例紹介・黒目川について

・魅力ある川づくりのための新たな取り組み（地域連携）

・意見交換

15：20～15：30

休憩

15：30～17：00

「第13回 河川愛護交流会の意見交換会」

REPORT

多自然川づくりフォーラム in 柳瀬川・不老川・砂川
～美しい川づくりを求めて～

去る、6月30日(土)に「多自然川づくりフォーラム in 柳瀬川・不老川・砂川～美しい川づくりを求めて～」が開催されました。このフォーラムは、『多自然川づくりへの展開』という新たな提言が国土交通省に対して昨年度5月に行われたことを受け、これまでの柳瀬川、不老川、砂川などの川づくりを振り返り、それぞれの川が抱える課題を解決していくため、最新の川づくりについて学びあうことを目的としています。午前中は柳瀬川、不老川、砂川へわかれて現地見学会が、午後は所沢市民文化センターミューズで、行政や学識経験者等による講演・事例紹介等が行われ、これらを踏まえたパネルディスカッションが行われました。

第1部 現地見学会

現地見学会には、一般、市民団体、行政、講師の方々が参加しました。参加者は、不老川(武蔵野橋周辺、狭山工区)、砂川(小手指遊水地～蜷詞橋)、柳瀬川(柳瀬川・空堀川合流点付近)に分かれて見学を行い、見学中には現場の状況説明や学術的な解説、参加者同士による意見交換が行われました。



柳瀬川



不老川



砂川

第2部 フォーラム

午後のフォーラムでは、約150名もの参加者が集まりました。フォーラムでは、国土交通省、東京都、埼玉県、大学、研究機関、企業等に所属する講師の方々から、取組み事例の紹介や、学術的な講義等があり、参加者は熱心に耳を傾けていました。

また、質問時間には参加者からの活発な意見が飛び交いました。

12:45 開会

不老川流域川づくり市民の会 相馬和彦 氏



国土交通省が「多自然型川づくり」から「多自然川づくり」へと政策転換したことを受け、市民団体としても協働の川づくりをするための勉強会としてこのフォーラムを開催した。これから10年の川づくりを目指して、行政と市民が互いに学び場となって欲しい。

12:50 基調講演 「多自然川づくりの新たな展開」

国土交通省河川局河川環境保全調整官 小俣 篤 氏



川が本来有する自然の力と地域の歴史のかかわりを大切にしたい目標像をつくり、具体像を共有することが重要である。

今後は現場の技術者のための道具づくりや現場のサポートのためのアドバイザーを増やすことなどによって、皆さんと一緒に、やりがいを持って川づくりができる状況をつくりたい。

13:20 話題提供

「多自然川づくりのポイント」九州大学 島谷幸宏 教授



多自然川づくりでは、どこが重要な場所なのかを見極めた『要所の保全』、低水路を固定せず『川を自由に』、上下流や支川の『つながりを大切に』、簡単に住民との合意形成を図るためにも『計画時に模型を利用する』の4つポイントが重要である。

「多自然川づくりに興味をもつ」⇒「工法を知る」⇒「川を知る」⇒「川を良くしたい」のプロセスで行政は川づくりをする必要があるが、住民はこの逆のプロセスで考えているので、相手がどのように考えていてどの段階にいるのかをお互いに認識することが必要だ。

13:50 事例報告

「柳瀬川の川づくり」東京都建設局北多摩北部建設事務所 荒川晴夫氏



市民の意見を反映した整備内容とするため、学識経験者、沿川自治会、市民団体、一般公募、行政で懇談会を結成し、新川と旧川の検討を行った。今回の川づくりでは、関係者が一同に会し、段階を踏んで合意形成と新しい川づくりをすることができたのではないかなと思う。

「不老川の川づくり」埼玉県川越県土整備事務所 小林安雄氏



これまでに不老川では総合治水対策及び床上浸水対策として河川整備を進めてきた。これから狭山市内での整備をすることになるが、様々な方々との対話を重ねながら、地域に求められているタイムリーなより良い川づくりをしていきたい。

14:25 学習会

1) 天然河岸と河畔林の保全に向けた課題と展望

独立行政法人土木研究所自然共生研究センター長 萱場祐一 氏

天然河岸は、「かなりの急湾曲が連続」、「箱型の川」、「複雑な面形状、連続する河畔林」が特徴である。天然河岸の保全については、「平面形状は現況を基本」、「横断方向は内岸側を中心に拡幅」、「急に侵食されることはないため、状況のモニタリングと下部のみの手当てを検討する」がポイントとなる。

2) 中小河川の環境復元

榊吉村伸一流域計画室 吉村伸一 氏

その川のいい場所をおさえることがまず大事である。川幅を広げる場合は、片側だけ広げて河川環境へのダメージを最小限にする、水際は低水護岸で固めない等が重要である。

3) 蛇行河道と礫川原の保全

九州大学 島谷幸宏 教授

蛇行には、自然に蛇行する「自由蛇行」と、硬いものに当たることによって蛇行する「強制蛇行」がある。礫川原は、砂礫の堆積や洪水の力によって扇状地や自然堤防地帯にできる。

パネルディスカッション「美しい川づくりを求めて」

コーディネータ：柳瀬川流域ネットワーク世話人 宮本善和 氏

パネラー：九州大学 島谷幸宏 教授

独立行政法人土木研究所自然共生研究センター長 萱場祐一 氏
榊吉村伸一流域計画室 吉村伸一 氏



「川幅を広くすること」について

これまで川底を深くする川づくりが行われてきたが、流速の増加や川床の低下、下流に土砂を堆積させて氾濫の原因となる場合もあり、川沿いにある公共の土地等を利用し、変化を与えながら川幅を広くすることが必要である。

「蛇行河川のショートカット」について

普通の河川は年に数回平常時の5～10倍流量の洪水を流さないと環境の維持ができないため、既存の蛇行部分をメインに、洪水時にはショートカット部分に流すようなつくり方のほうが環境のためにはよい。

「多自然川づくりのコスト」について

多自然川づくりはなるべく護岸をつくらない川づくりのため、低コストになることが多い。また、施工後の管理についても、横浜市のいたち川のように、地元の人々が自発的に河川愛護会をつくり、行政がそれを助成するような仕組みづくりが重要である。

「良い川づくりをするためのコミュニケーション」について

行政内部でのネットワーク構築や川づくりに関わる人々が最低限必要な知識を共有化できる場づくり、市民と行政と一緒に現場を見て川づくりに対する意識を共有すること、市民と行政が協働で作成する地域のポイントブックやアドバイザー制度の導入等が必要である。

16:15 閉会

砂川流域ネットワーク 椎葉 迅 氏



今日のフォーラムで行政と市民の考え方にはまだギャップがあることを感じた。このギャップをいかに埋めていくのか、今日のフォーラムが今後の川づくりを考えるきっかけになればよいと思う。

国土交通省からのお知らせ

○荒川知水資料館(amo)ワークショップ

荒川知水資料館(amo)では荒川に触れることが出来る機会として年間を通じて様々なワークショップを開催しています。

◆「荒川防災講座 ―な～るほど!! the 防災フェスティバル―」

- ・日時：9月8日(土) 10:00～15:30(受付 9:30～)
- ・場所：荒川知水資料館(amo)
- ・講師：荒川下流河川事務所調査課、北区まちづくり部道路公園課
- ・内容：巡視船「あらかわ号」に乗って、普段の荒川を眺めながら、大雨がふったらどうなるかなど、洪水時の心構えを学びます。また体験車で雨の強さや土砂災害の恐ろしさを体験できます。

	Aコース	Bコース
午前	あらかわ号乗船講座	災害体験講座
昼食	非常食を用意しています	
午後	災害体験教室	あらかわ号乗船講座

- ・対象：小学生以上(小学生は保護者同伴 親子での参加歓迎)
- ・募集人数：70名(各コース35名 定員に達し次第締切)
- ・費用：無料
- ・申込み：はがき・電話・メール・直接資料館受付のいずれかで、希望コース、参加者全員の住所・氏名・年齢・電話番号をご連絡ください。

※ 受付中

◆「子どもをモデルにした荒川で撮る親子写真教室～僕も私も可愛いモデル～」

- ・日時：9月9日(日) 10:00～15:30(受付 9:30～、雨天中止)
- ・場所：荒川知水資料館(amo)で受付 荒川知水資料館および荒川周辺の水辺
- ・講師：あらかわ学会 写真委員会
- ・内容：荒川の自然にふれあいながら親子で参加する初心者向けの写真教室
- ・対象：小学生以上(必ず保護者同伴)
- ・募集人数：20組(定員に達し次第締切)
- ・費用：無料
- ・持ち物：デジタルカメラ、昼食、飲料水、帽子。
※土手・水辺で活動できる服装
- ・申込み：はがき・電話・メール・直接資料館受付のいずれかで、参加者全員の住所・氏名・年齢・電話番号をご連絡ください。

※ 受付中

◆「ボート(漕艇)教室 ～荒川で4人乗りボートを漕ごう～」

- ・日時：9月22日(土) 10:00～15:30(小雨決行)
- ・時間割：第1回 10:00～11:45、第2回 11:15～13:00、第3回 12:30～14:15、第4回 13:45～15:30(各回開始15分前に集合)
- ・場所：荒川知水資料館(amo)で受付、荒川岩淵水門周辺水域
- ・講師：東京都ボート協会 MIZUボートクラブ
- ・内容：ナックルフォア(4人漕ぎの安定の良いボート)による初心者教室
- ・対象：一般(小学校5年生以上、高齢者まで。健康な方。小学生は保護者同伴、親子での参加歓迎)
- ・募集人数：48名(各回12人 定員に達し次第締切)
- ・費用：300円(学生は無料)
- ・持ち物：足の屈伸など運動ができ、ぬれても良い服装(Tシャツ・短パン等)、厚手の靴下、タオル、帽子、飲料水、学生証(学生の方に限る)
- ・申込み：はがき・電話・メール・直接資料館受付のいずれかで、希望時間(第2希望まで)、参加者全員の住所・氏名・年齢・電話番号をご連絡ください。

【受付開始】9月1日(土)

※個人情報の取り扱いについては、個人情報保護法に基づき適正に取り扱います。



●問合せ先●

〒115-0042
東京都北区志茂5-41-1
荒川知水資料館 ワークショップ事務局
【TEL】03-3598-2134
【HP】http://www.ara.go.jp/amo/
【メール】amo-ws@ara.go.jp
【受付時間】10:00～16:00(月曜日を除く)
(月曜が祝日の場合は火曜休館)